

* 2025年9月改訂(第2版)
2023年3月改訂(第1版)

貯法：室温保存
有効期間：5年

日本標準商品分類番号	
873122	
承認番号	販売開始
13600AZZ00334	1961年5月

フルスルチアミン錠

5mgアリナミン[®]F 糖衣錠

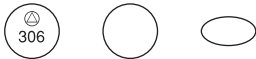
ALINAMIN[®]F SUGAR-COATED TABLETS

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	5mgアリナミンF糖衣錠
有効成分	1錠中：フルスルチアミン 5mg
添加剤	トウモロコシデンプン、アルファー化デンプン、ゼラチン、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物、タルク、アラビアゴム末、精製セラック、ヒマシ油、モノステアリン酸グリセリン、カルナウバロウ、サラシミツロウ、香料、エチルパニリン、精製白糖

3.2 製剤の性状

販売名	5mgアリナミンF糖衣錠		
色・剤形	白色の糖衣錠		
形状		直径 7.2mm	厚さ 3.8mm
		重量 150mg	
識別コード	㊦ 306		

4. 効能又は効果

- ビタミンB₁欠乏症の予防及び治療
- ビタミンB₁の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、妊産婦、授乳婦、はげしい肉體労働時等)
- ウェルニッケ脳症
- 脚気衝心
- 下記疾患のうちビタミンB₁の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
 - ・神経痛
 - ・筋肉痛、関節痛
 - ・末梢神経炎、末梢神経麻痺
 - ・心筋代謝障害
 - ・便秘等の胃腸運動機能障害
 - ・術後腸管麻痺

ビタミンB₁欠乏症の予防及び治療、ビタミンB₁の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給、ウェルニッケ脳症、脚気衝心以外の効能・効果に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

6. 用法及び用量

通常、成人には1日量1～6錠(フルスルチアミンとして5～30mg)を1回1～2錠ずつ、1日1～3回に分けて食後直ちに経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	発疹、そう痒感
消化器	悪心、胸やけ、胃痛、胃部不快感、下痢、口内炎

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

本剤は消化管からの吸収がよく、投与量に比例して速やかに吸収され、高い血中ビタミンB₁濃度を持続する¹⁾(健康人)。

16.3 分布

本剤はリポイド易溶性で組織に対する親和性が強く、血球等によく移行する。また、体内貯留性がよい²⁾(健康人)。

16.4 代謝

本剤は細胞内で速やかに非酵素的にビタミンB₁に還元した後エステル化され、多量の結合型B₁(コカルボキシラーゼ)を生成する²⁾(健康人)。

16.5 排泄

本剤の経口投与により、尿中ビタミンB₁排泄量は投与量に比例して増加する³⁾(健康人)。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

ビタミンB₁に比べ細胞内によく取り込まれ、多量のコカルボキシラーゼを生成して、諸種代謝活性をたかめる。また、腸管内アウエルバッハ神経叢内の腸運動亢進ニューロンへ作用し、腸管の蠕動運動を亢進させる。

18.2 神経機能障害改善作用

ビタミンB₁は神経組織の形態保持上重要であり、また、神経インパルス伝導に際してビタミンB₁が遊離消費され⁴⁾、神経細胞内のコカルボキシラーゼは糖代謝に対する依存性が大きい神経細胞のエネルギー産生に関与していること⁵⁾等が示されている。本剤は神経組織へ移行するとともに、神経細胞の増殖促進⁶⁾(*in vitro*)、神経再生促進^{7),8)}(ウサギ)、骨格筋活動電位の増加⁹⁾(ラット)等の作用が認められており、ビタミンB₁の欠乏又は代謝障害と関連する神経機能障害を改善する。

18.3 心筋代謝障害改善作用

本剤はビタミンB₁に比べて心筋細胞へのとりこみがよく、心筋内では殆どがコカルボキシラーゼとして存在すること¹⁰⁾(ラット)、麻酔イヌで心筋代謝障害改善作用が認められていること¹¹⁾より、心筋内でコカルボキシラーゼとなって心筋代謝障害を改善すると考えられている。

18.4 腸管蠕動運動亢進作用

本剤は腸管蠕動運動亢進作用を示す¹²⁾(イヌ)が、この作用は腸管内アウエルバッハ神経叢内に存在すると考えられる腸運動亢進ニューロンへの作用によるとされている¹³⁾(イヌ、ネコ、ウサギ、モルモット)。なお、ビタミンB₁ではこの亢進作用は殆ど認められていない¹²⁾(イヌ)。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：フルスルチアミン (Fursultiamine)

化学名：*N*-(4-Amino-2-methylpyrimidin-5-ylmethyl)-*N*-[4-hydroxy-1-methyl-2-[(tetrahydrofurfuryl) dithio]-1-butenyl]formamide :

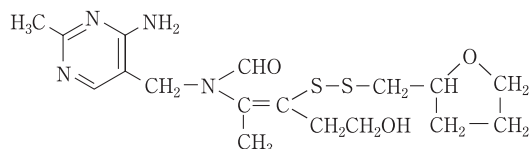
Tiamine tetrahydrofurfuryl disulfide(略号：TTFD)

分子式： $C_{17}H_{26}N_4O_3S_2$

分子量：398.54

性状：白色～帯黄白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはないか、又は僅かに特異なおいがあり、味は苦い。メタノール、エタノール(95)又はクロロホルムに溶けやすく、水に溶けにくい。希塩酸に溶ける。

構造式：



22. 包装

100錠[(10錠(PTP)×10)]

23. 主要文献

- 1) 柴田長夫 他：Alinamin Symposium. 1961：5-11
- 2) 阿部達夫：日本臨牀. 1962；20：1957-1966
- 3) 桂 英輔：Alinamin Symposium. 1961：11-15
- 4) 糸川嘉則：ビタミン. 1975；49：415-427
- 5) Muralt A.：Ann.N.Y.Acad.Sci. 1962；98：499-507
- 6) 成実重彦 他：ビタミン. 1975；49：308
- 7) 中沢恒幸 他：アリナミン基礎文献集. 1966；3：117-120
- 8) 桐田良人：臨牀と研究. 1966；43：1889-1896
- 9) 中原正雄 他：新薬と臨牀. 1966；15：1297-1298
- 10) Iida S.：Biochem.Pharmacol. 1966；15：1139-1145
- 11) 佐々木一彦：久留米医学会雑誌. 1964；27：875-894
- 12) 中山 沃 他：ビタミン. 1963；28：235-237
- 13) 福原 武 他：ビタミン. 1965；31：494-499

* 24. 文献請求先及び問い合わせ先

T's製薬株式会社 ティーズDIセンター

〒451-0045 名古屋市西区名駅二丁目27番8号

TEL 0120-923-093

受付時間 9：00～17：30(土日祝日・弊社休業日を除く)

26. 製造販売業者等

* 26.1 製造販売元

T's製薬株式会社

大阪市中央区道修町四丁目1番1号

26.2 販売

武田薬品工業株式会社

大阪市中央区道修町四丁目1番1号